

平成21年9月18日17時現在

## 各都道府県における「新型インフルエンザに関する臨時休業の基準や目安」の状況

## 1 作成状況

○ 作成している都道府県 47都道府県

## 2 具体的な内容

## ○ 学級閉鎖

1	複数の患者発生	秋田(状況勘案して判断)、山形、福島、茨城、千葉(原則)、福井、山梨、岐阜、三重(状況勘案して判断)、京都(府教委と協議)、和歌山(状況勘案して判断)、鳥取、鹿児島
2	2人以上かつ10%を超える患者発生	熊本、宮崎
3	3人～4人(10%程度)の患者発生	北海道、岩手、栃木(状況勘案して判断)、埼玉、東京、神奈川、新潟、富山、石川、長野、静岡、愛知、奈良、山口、高知、大分、沖縄
4	5人以上の患者発生	島根
5	およそ5人(約10～15%)の患者発生	大阪、広島
6	患者及び疑い患者の総数が10～15%に達したとき	兵庫(県教委と協議)
7	10～15%程度の患者等発生	佐賀
8	10～20%の患者発生、かつ、当該学級において更に感染が拡大するおそれ	愛媛
9	10～20%未満の患者発生(状況勘案して判断)、20%以上(原則閉鎖)	岡山
10	10～30%の患者発生	徳島
11	概ね15%程度の患者発生	長崎
12	15%に達する患者発生	滋賀
13	概ね2割程度の患者発生	福岡
14	一定の人数の患者発生	宮城
15	7日以内に2名の患者発生で検討を開始し、欠席率が急速に高くなったとき、又は患者数が急激に増加若しくはその傾向が予測されるとき	香川

16	通常の欠席者数と比較して、インフルエンザ様疾患の症状により欠席する児童生徒と有症登校者が急増する場合、必要な措置を検討する。	群馬
17	患者発生状況を勘案して判断	青森

## ○ 学年閉鎖

1	複数学級で短期間に多数の患者発生	島根
2	複数学級で学級閉鎖	北海道、青森、岩手、宮城、秋田(全体の状況を総合的に判断)、福島、埼玉、東京、神奈川、新潟、富山、山梨、滋賀、京都(府教委と協議)、兵庫(県教委と協議)、山口、高知、佐賀、長崎、熊本、大分、鹿児島、沖縄
3	1学年に複数かつ半数以上の学級で学級閉鎖	徳島
4	学級を超えて感染拡大のおそれ	山形、栃木、千葉、石川、福井、岐阜、愛知、三重、大阪、奈良、和歌山、鳥取、岡山、福岡、宮崎
5	学級を超えて広範に患者発生、かつ、学年全体で感染拡大のおそれ	愛媛
6	通常の欠席者数と比較して、インフルエンザ様疾患の症状により欠席する児童生徒と有症登校者が急増する場合、必要な措置を検討する。	群馬
7	欠席状況に応じて検討する	静岡
8	規定なし	茨城、長野、広島、香川

## ○ 休校

1	複数学級で短期間に多数の患者発生	島根
2	複数学級で学級閉鎖(全体の状況を総合的に判断)	秋田、山梨
3	学校全体の 1/3 以上の学級閉鎖	広島
4	複数学年で学年閉鎖	北海道、青森、岩手、宮城、福島、埼玉、東京、新潟、富山、京都(府教委と協議)、山口、高知、佐賀(他の学年でも患者確認、感染拡大のおそれ)、長崎、大分、鹿児島、沖縄
5	複数学年における感染者の増加又はまん延するおそれがある場合	熊本
6	半数以上の学年で学年閉鎖	徳島

7	学校全体で10%を超える欠席	長野
8	学年を超えて感染拡大のおそれ	山形、栃木、千葉、石川、福井、岐阜、愛知、大阪、奈良、和歌山、鳥取、岡山、福岡、宮崎
9	学年を超えて広範に患者発生、かつ、学年全体で感染拡大のおそれ	愛媛
10	学校において、まん延するおそれ	滋賀
11	学校において、感染拡大を予防する必要があると判断されるとき	兵庫(県教委と協議)
12	通常の欠席者数と比較して、インフルエンザ様疾患の症状により欠席する児童生徒と有症登校者が急増する場合、必要な措置を検討する。	群馬
13	欠席状況に応じて検討する	静岡
14	教育委員会と相談	神奈川、三重
15	規定なし	茨城、香川

## ○ 休業期間

1	3日間	鳥取、長崎、鹿児島(3~7日)
2	4日間	埼玉、東京、新潟、石川、愛知、滋賀(程度)、大阪、島根、岡山、広島、熊本、大分、宮崎
3	5日間	北海道、神奈川、奈良、和歌山(5~7日)、山口、福岡
4	7日間	青森(原則)、岩手、山形、千葉(原則)、富山、福井(原則)、山梨、長野、岐阜、静岡(最長)、京都(府教委と協議)、兵庫(原則)、徳島、香川、愛媛(又は解熱後2日後まで)、高知、佐賀、沖縄
5	教育委員会と相談	三重
6	規定なし	宮城、秋田、福島、茨城、栃木、群馬、